

(社) 日本コンクリート工学協会四国支部
第 8 回「四国の骨材に関する研究委員会」WG3.WG4 合同委員会 議事録

1 日時： 平成 22 年 6 月 3 日 (木) 14:00～17:00

2 会場： 高知工科大学 C 棟 C592 プレゼンテーションルーム

3 出席者：

島 弘 WG3 主査 (高知工科大学)、橋本親典 WG4 主査 (徳島大学)、古田満広 (生コン香
川工組)、森澤勝弘 (生コン高知工組)、新迫東洋男 (生コン愛媛工組)、福池仁志 (徳島県
砕石工組)、近藤洋司 (香川県砕石工組)、吉田幸稔 (香川県砕石工組)、福田周一 (愛媛県
砕石工組)、濱本久光 (愛媛県砕石工組)、半沢文好 (高知県砕石工組)、大石一彦 (高知県
砕石工組)、

オブザーバー:宮地日出夫 (高知工科大学)、白石泰雄、小泉孝、岡 寛、上野勝利、山岡宏
三 以上 18 名

4 配布資料：

8-0 WG 合同委員会 参加者名簿及び委員会次第

8-1 第 7 回 WG 合同委員会議事録案

8-2-1 低温炉乾燥による急速乾燥収縮試験法と長さ変化試験法 (JIS A 1129) の比較

8-2-2 各種配合による乾燥収縮試験結果(WG4)

8-3 平成 20 年度・21 年度 コンクリートの乾燥収縮に及ぼす骨材特性の影響に関する調査
研究報告書案 (WG3 島主査)

5 議事

(1) 島主査より 8-1 議事録案について説明があり、承認された。

(2) 同じく島主査から 8-3 について解説がなされた。

第一に骨材特性の影響を取り入れた乾燥収縮量予測式の説明があり、この予測式では
細骨材 2 種類粗骨材 1 種類、または細骨材 1 種類と粗骨材 2 種類との組み合わせによ
る予測式であって、これによってどういった組み合わせが乾燥収縮に対して効果的であ
るのかが予測できるものである。

今後はこの予測式がどの程度の精度で実際の乾燥収縮量との近似を示すか検証してゆ
きたい、とのことであった。

また、今回の一連の試験において粗骨材の乾燥収縮量を測定したが、資料ナンバーの
A,C,F については測定していないので、これは追加実験をしたいので原石テストピース
が必要である、とのことであった。

砕石工業組合側ではこれを了承し、早速手配することにした。

また生コン工業組合側では骨材の一部を変更して、それが乾燥収縮にどのような影響
を及ぼすかの試験をしており、そのデータも欲しいという要請も了承された。

ついでモルタル、コンクリート供試体のヤング係数を測定して骨材のヤング係数を推定し、実際の測定値と比較したいことがこれからの予定である、と言う説明があった。

なお、原石供試体は 10×10×20 のカッティング。期日は 6 月末まで。ピースは 3 本。以上の説明、及び資料について供試体の写真は産地、工場のわからないようにして欲しい意見があり了承された。

高知県から島主査の予測式について、自信がありますか？との問いかけがあった。

資料 8-3 fig5.6 にそのばらつきが示されているが、高知県のみならず他の人も一番の関心事であるようだったが、これは以後の問題であり、主観的なことではないので今云々はできなからう。

(3) WG4 について橋本主査から説明があった。

四国の 4 県の生コン工業組合で実施した乾燥収縮のデータに関しては、前回の委員会で提出した資料に追加されたものはない。そのため、本委員会では提出しなかった。最終的な公表方法としては、石灰石系コンクリートと非石灰石系コンクリートに分類しないで、4 県の生コン工業組合の全データとして乾燥収縮ひずみのヒストグラムを公表する。全国レベルのデータとの比較では、都市部が中心の全国レベルは、石灰石系コンクリートが多いため、乾燥収縮ひずみの平均値が、四国 4 県よりも小さいことを明記する予定である。日本建築学会、土木学会や JCI から公表されているデータとはそんなに大きな違いはないようであるので、その点についても明記し、四国 4 県のコンクリートの乾燥収縮が全国レベルと比較して、特に大きいことはないという結論にしたいという説明がなされた。

資料 8-2-1 低温炉乾燥収縮試験法と JIS A 1129 の比較について説明。

資料 8-2-2 各種配合による乾燥収縮量試験結果の説明で、これらは前回より引き続き試験中の結果である。内容は球状化骨材や銅スラグ、改質骨材等の試験結果である。

対策についてはこの他いろいろな方法が考えられ、提案があれば橋本主査も検討するのにやぶさかではないという説明がなされた。ただし、碎石組合や生コン工業組合ではテーマを絞りきれないようであった。

橋本先生の実験の続きはあるが出来れば報告書原案は早めにまとめたいが、まだ残りの試験がありこれらの実験結果をまとめて 次回の委員会で報告したいとの説明がなされた。

(4) 次回委員会の開催日時について

日時 9 月 29 日 14:00～、場所；徳島大学工学部建設棟 3 F303 室